

戦後日本政治の転換点

朝日新聞社政治部長
松田京平



*「政治とカネ」が作る政治の転換点

*10月解散か

*決選投票の観測

*育ててこなかった総裁候補

*派閥裏金問題の大口処分

*ざる法はざる法のまま

*刷新感が出ない立憲民主党

*選挙は与野党接戦も

*「宮沢日録」の驚くべき正確性

*宮沢、岸田退陣顛末の類似点

山縣 それでは開会いたします。

今年8月の夏はたいへんな暑さで、皆様いかがお過ごしだったでしょうか。今日から年度後半の講演会開始になり、今回が第1回、最初の講演会になります。

本日の講演会は松田京平さん、朝日新聞の政治部長をお招きしました。たいへんお忙しいところ来ていただきました。北海道大学の法学部を卒業されて、朝日新聞に入社され、政治部で自民党、民主党、それから首相官邸等を担当されて、23年5月から政治部長にご就任になっていらつしゃいます。

去年は政治部長ご就任数カ月のところでここに来ていろいろお話しいただきましたけれども、考えてみればこの1年ほどで、たいへんな政治

的激動がありました。さらにこれからどうなっていくか非常に重要な局面でまたお越しいただくことができました。

皆さんご承知と思いますが、先日の新聞で報道されていましたけれども、朝日新聞は「自民党派閥の裏金問題をめぐる一連のスクープと関連報道」で新聞協会賞に選ばれました。23年12月1日付の朝日新聞の一面トップで「安倍派裏金1億円超か」というスクープ記事が出まして、その後この問題をずっとリードされて報道され、12月10日には安倍派幹部一掃という非常に重要な局面のスクープ記事がありました。これは政治部が主導でなされたと思います。

その後、権勢を振るった安倍派の幹部が政治の表舞台から消えまして、派閥は解体されて政